

II-337

長崎県本土沿岸域における台風による港湾・海岸構造物災害の地域別発生状況

熊本工業大学 正会員 橋村隆介

1. はじめに： 長崎県本土の沿岸域は、多くの半島とリアス式海岸を有し、長崎県諸島と同じく多くの港湾、漁港および海岸構造物が点在している。また、これらの構造物も台風の経路に当たるため絶えず災害の危険にさらされている。しかし長崎県諸島の沿岸域と比べ海域的、地形的な沿岸特性が異なるため、台風によるこれらの構造物に対する影響は異なっているものと思われる。このため、台風のよって発生するこれらの災害は長崎県諸島の場合と異なった特性を示すことが考えられる。

本稿では、以上の観点より長崎県本土の沿岸域における港湾・海岸構造物の地域別発生状況を明らかにするため、過去5年間（1980～1984年）の台風によって発生した被害の調査結果に基づいてそれらの特性について述べるものである。

2. 地域別特性： 海域および地域特性を考え、周辺島しょを含む次の5つの地域¹⁾に分類した。

2. 1 有明海沿岸：この地域の海岸線延長は約140 kmで、被災件数は約22件であった。海岸線約6.4 km当り1件の被害であった。主な被災地は、小長井町周辺と有明町周辺の沿岸地域であり、その内有明町周辺では9件が発生している。特に、小長井港ではこれらの地区で最高の4件の被害が発生している。

2. 2 橘湾沿岸：この地域の海岸線延長は約150 kmで、被災件数は26件であった。海岸線約5.8 km当り1件の被害であった。被害は、湾奥部の唐比漁港から京泊漁港に至る沿岸域に集中し、被災件数は、この地域の約65%を示した。特に、京泊および飛子の両漁港で8件の被害が発生した。

2. 3 東シナ海側（西彼杵）沿岸：この地域の海岸線延長は約430 kmで、被災件数は60件であった。海岸線約6.7 km当り1件の被害であった。これらの被災件数の内、崎戸港と長崎漁港より高島に至る沿岸各地で44件発生している。この件数はこの地域の被災件数の約73%にあたり、特に、崎戸港では本調査における最高の値を示した。

2. 4 北松浦半島沿岸：この地域の海岸線延長は約1120 kmで、被災件数は25件であった。海岸線約4.5 km当り1件の被害であった。江迎港から調川港に至る沿岸における被害は、この地域内の被災件数の約68%であった。

2. 5 大村湾沿岸：この地域の海岸線延長は約360 kmで、被災件数は30件であった。海岸線約1.2 km当り1件の被害であった。この地域では、被害の発生個所の地域分布においてその特性が現れ、被害は大村湾の東入江と琴海町の両沿岸地域に集中し被災件数は21件であった。特に琴海町沿岸域では15件が発生した。また、佐世保港港湾区域内で6件であった。

3. 台風別発生状況：表-1によると、台風8013号の時は、北松浦半島沿岸に被害が集中している。台風8118号の時には、橘湾および東シナ海側沿岸に集中している。台風8310号の時には、有明海沿岸

表-1 被災統計

台 風	場 所	件 数
T. 8013	有明海沿岸	1
	東シナ海側沿岸	1
	北松浦半島沿岸	12
	大村湾沿岸	4
T. 8110	有明海沿岸	1
	橘湾沿岸	1
	東シナ海側沿岸	3
	北松浦半島沿岸	1
T. 8118	有明海沿岸	4
	橘湾沿岸	17
	東シナ海側沿岸	19
	北松浦半島沿岸	4
T. 8310	有明海沿岸	10
	橘湾沿岸	3
	東シナ海側沿岸	22
	北松浦半島沿岸	6
T. 8410	大村湾沿岸	14
	有明海沿岸	6
	橘湾沿岸	5
	東シナ海側沿岸	15
	北松浦半島沿岸	2
	大村湾沿岸	12

では他の台風の時と違い数多くの被害が発生した。また、大村湾でも同様の傾向を示した。台風8410号の時には、東シナ海側沿岸および大村湾に被害が集中した。

最後に、長崎県、市および災害担当の方々には大変お世話になったことに対し衷心より謝意を表する。

参 考 文 献

1) 橋村隆介ほか、：雨を伴う台風による港湾・海岸構造物災害の地域別特性、第41回土木学会年次学術講演会講演集、PP. 685-686、1986。

2) 建設省河川局編：海岸統計、昭和58年度版。

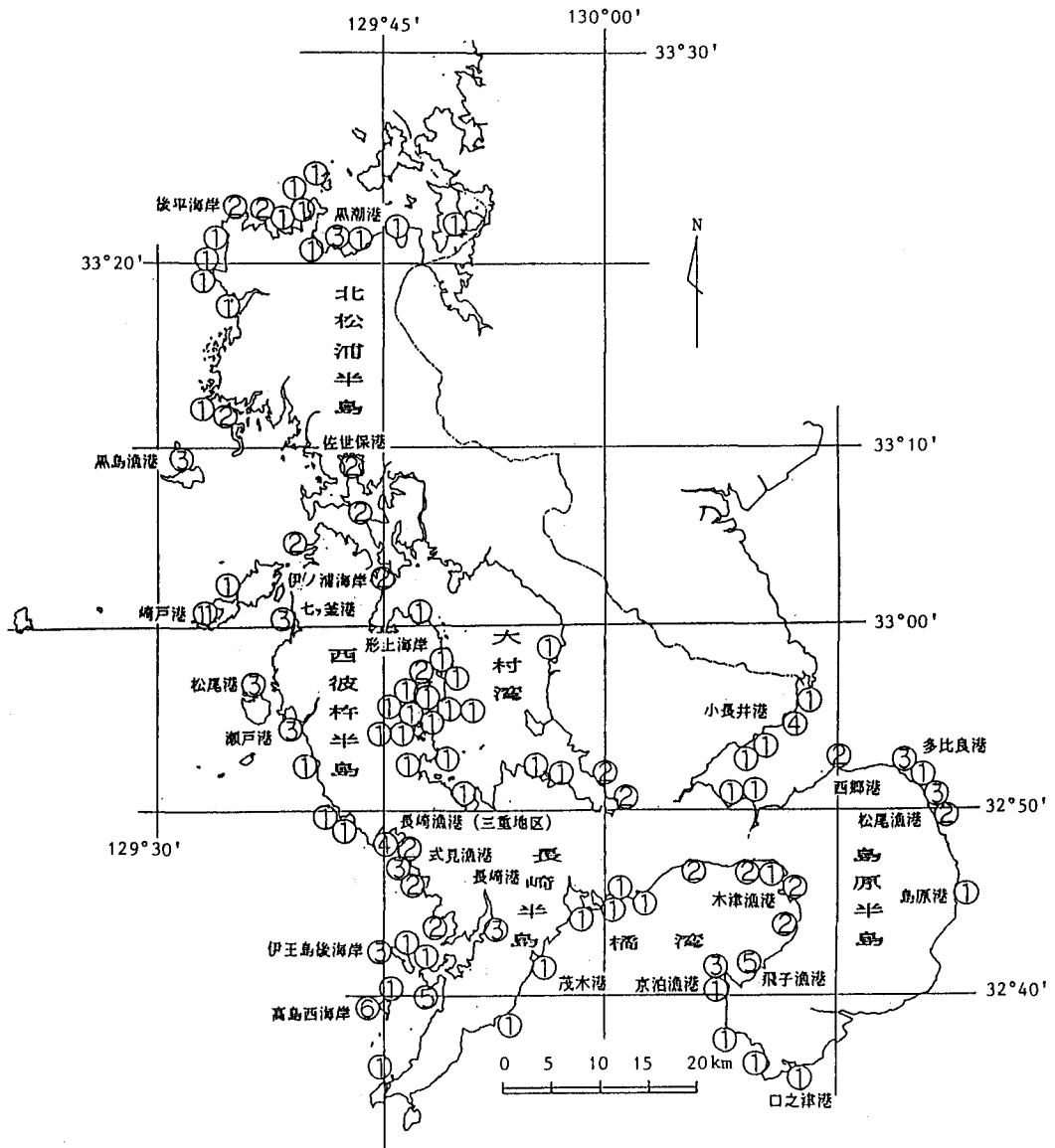


図-1 被害発生件数の分布